

学校自己評価表

平成 29 年 7 月 3 日作成

学校法人セムイ学園 **東海医療科学専門学校**
評価対象期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

目 次

基準 1	教育理念・目的・育成人材像等・・・1	基準 7	学生の募集と受け入れ・・・19
基準 2	学校運営・・・・・・・・・・2	基準 8	財務・・・・・・・・・・20
基準 3	教育活動・・・・・・・・・・3	基準 9	法令等の遵守・・・・・・・・21
基準 4	学修成果・・・・・・・・・・10	基準 10	社会貢献・・・・・・・・・・22
基準 5	学生支援・・・・・・・・・・13		
基準 6	教育環境・・・・・・・・・・18		

基準1 教育理念・目的・育成人材像

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
1-1	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められ、実現するための具体的な計画・方法を持っているか	4	理念・目的・育成人材像は、学園案内、学園ホームページに明記している。臨床実習指導者会議における、実習施設からの提言を活用し、実習前教育の充実を図っている。また、教育課程編成委員会で、シラバス、教材等、教育課程の内容を、外部委員の方の意見を取り入れ、改善を図っている。
1-2	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	3	各学科とも、関連業界との連携を重視し、現場実習や研修、業界において現役で活動している非常勤講師の授業等を積極的に導入している。また、教育課程編成委員会を始めとする会議でカリキュラムの点検や改革を行うと共に、就職先との情報交換や連携活動も頻繁に行うことで、関連業界の動向と将来性を常に注視し、学科運営に反映させている。
1-3	理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	4	学校案内並びにホームページに記載しているので広く周知されている。
[評価] ※ 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

- ・学校案内2016
- ・東海医療科学専門学校ホームページ <http://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/>
- ・平成28年度 スチューデントマニュアル

基準2 学校運営

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
2-1	人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3	整備されている。就業規則、諸規定は、学内サーバーの共有フォルダに保存されており、教職員が閲覧可能となっている。
2-2	学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められており、学校は事業計画に沿って運営されているか	3	事業計画については、各校及び法人本部で作成し、評議員会及び理事会で意思決定されている。目標管理制度の定着化を図るため、管理職の研修を実施していく。
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	運営組織は、組織図において明示している。法人全体の重要事項については、理事会・評議員会が組織され、意思決定を行っている。また、毎月経営会議を開催し、学校経営に係る事項や不定期に発生する重要事項について、意思決定がなされている。
2-4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動等の情報公開については、文部科学省の定めるガイドラインに基づき、学園のホームページにおいて情報公開に取り組んでいる。
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	サイボウズofficeを導入し、情報の可視化と共有、業務の効率化を図った。
[評価] ※ 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

セムイ学園ホームページ <http://www.tokai-med.ac.jp>

基準3 教育活動

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	医療従事者としての「当たり前」のことは、当たり前に行っている。人材育成を目標としている。学習指導、生活指導ともに普段より注意を払い教育している。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	主に臨床実習先の指導者を招き年2回の会議を行っている。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	適切に実施できている。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適切な位置付けをされているか	4	適切に実施できている。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	シラバスに明記されている。また4月のオリエンテーション時においても口頭や配付資料で周知徹底している。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	4	学年制のため進級はすべての科目試験合格、卒業はすべての科目試験、卒業試験合格にて確定する。各学年ともに4月のオリエンテーション時に周知徹底している。
3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3	学園全体の勉強会は常時参加。また、病院施設への研修、外部団体・外部組織の研究、学会などへ積極的に参加した。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	前期・後期と授業が終了する事に学生アンケートを実施。変更できる箇所については早急に対応を行った。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	3	すべての非常勤講師に授業評価を公開していない(希望者のみ)ため、一部対応できていない。常勤職員に関しては、情報を共有し改善できる部分は改善し、授業テキストも毎年改変を行い対応している。

3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	4	年間30回ほどの模擬試験を実施し、データベース化を行う。各学生の苦手分野をすべて数値化し、担当教員へ情報を提供。個別での補習を実施し成績向上を目指している。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠となる規定、資料等

- ・ スチューデントマニュアル
- ・ 教員研修実施状況

・ 理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	豊富な知識、高い技術、思いやりをもった人材を育成する。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会、学校評価委員会での意見を活用している。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	養成施設指定規則および国家試験ガイドラインをもとに作成している。このほかに医療の広い分野を理解するために、セムイ学園内の分野をオムニバスで科目として取り入れる準備をしている。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか	4	教育課程編成委員会でも確認し、適当な配置となっている。指定規則が平成31年度に改正予定のため準備を要する。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	明確になっている。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	3	進級、卒業判定会議規程に基づき判定している。

3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3	理学療法士等教員講習は、教育方法論、教育方法実習などのカリキュラムを受講することができるため。教員として採用した場合にできる限り早い時期に参加させたい。 確認テストの実施を促しており、実行している教員が増加傾向にある。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	全学年で実施することができた。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	4	専任教員については、評価に応じて面談を行い、改善が必要な場合は目標管理を行い、改善を図っている。
3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	4	学科教員が計画通りに国家試験対策を実施すること、チューター制が教員内に浸透してきており合格率が向上した。合格率を維持しつつ、卒業率の向上を図っていく。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	「実践主義教育による「マイスターOT」の育成」を教育理念に挙げ、技術を身に付けた職人としての作業療法士の育成を目指している。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会の意見を活用している。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	各科目の時間数、臨床実習の時間数ともに問題なく適切に編成されている。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか	4	3年制ということもあり、時間的な制約がある中で、「解剖学」・「生理学」・「運動学」以外の医学系の科目を可能な限り2年次開講として、おおむね適当な位置づけをしている。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	出席は全コマ数の2/3以上の出席とし、科目試験および再試験で60%以上の得点で合格としている。実習は規定時間数の4/5以上の出席としている。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	4	上記の基準でその年度の科目をすべて合格することが進級の基準となり、3年次にはそれに加えて卒業試験の合格が条件となっている。
3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	学校全体で教員研修が行われている。また、教員ごとに学校外での勉強会や学会等に参加している。学科長は愛知県作業療法士会の監事を務め、理事会・研修会等に参加している。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	各学年で、全科目において実施した。可能な限り、講義が終わるごとに試験が行われる前に実施した。

3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	4	評価の結果は学科教員全員で共有し、学校としても把握してもらっている。外部講師の方にも、希望があれば評価結果を渡している。それぞれの科目で意見等を参考にした。
3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	4	1年生には体験としての国試模試模擬試験を行った。2年生は実習待機期間から基礎医学のグループ学習を実施しており、3年生では臨床実習の待機期間を使って本格的なグループ学習を実施した。外部講師による国家試験特別講義も3回行った。実習終了後から国家試験まではグループ学習・ペア学習を行い、業者模擬試験は7回を行った。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	学科コンセプト等で毎年明確にしている。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	学校関係者評価委員会にて関係者からの評価を受けており、受け止め、学科の教育に反映できるよう努めている。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	教育課程は適正に編成され、単位、時間数とも規則を順守している。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか	4	カリキュラム中の各科目は年次配当、時間数等とも概ね適当な位置づけにある。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	スチューデントマニュアルに基づき実施している。来年度も今年度と変更なく取り組んでいきたい。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	4	スチューデントマニュアルに基づき実施している。卒業試験の

			結果を国試受験に反映させる取り組みを行っている。来年度もこの方法を踏襲していきたい。
3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	教員の教授力向上のための研修を各教員が行っている。また学園の取り組みもあり教授力を向上させる研修が行われている。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	授業評価は今年度も学年の最終授業などで実施した。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	3	評価の概要は各講師に示されており、一定の授業改善効果があると考えている。
3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	3	国家試験の指導は例年どおり行われた。試験対策授業なども行われ、模試なども確実に実施できた。国家試験の難化がみられ指導も改善していきたい。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	明確になっている
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	国家試験の合格率向上のためには、教員の意識改革が必要との指摘を真摯に受け止め、個別指導を密にした。結果合格率が向上した。卒業生の国家試験合格率も指摘されたが、意識して向上させるつもりである。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	適正に編成されている。

3-4	各科目はカリキュラムの中で適切な位置付けをされているか	4	適切な位置づけになっている。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	明確になっている。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか	4	明確になっている。
3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3	外部から講師を招聘し、学校として組織的に行っている。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	適正に行われている。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	3	専任教員は、努力している。非常勤講師は、評価はされているが伝えてはいない。次年度の講師依頼に反映させている。
3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	4	グループ学習、チューター制を取っている。ボーダーラインにある学生の指導では、個別学習を行い成績向上へと繋がった。もう少し早い時期から個別指導をすれば自信をもって国家試験が受けられたと思った。正答率の悪い教科の勉強をさせた事、専任教員の特別講義も合格率向上に繋がったと思われる。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

基準4 学修成果

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	2年次からキャリア講習を実施。また、担任のみが就職支援に携わることなく学科教員全員でサポートを実施している。卒業までに内定していない生徒は、卒業後も就職支援を行っている。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	基礎学力の向上と授業の理解度を深めるため、授業後に補習(特に工学系を中心に)を毎週実施し、基礎学力の底上げを行っている。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	第30回臨床工学技士国家試験の合格率が81.9%であった。その中でも当学科は96.3%と高水準を維持できている。

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	希望の分野を紹介するようにしている。
4-2	中退率の低減が図られているか	4	平成27年度退学者数20名/214名 (9.34%) 平成28年度退学者数7名/208名 (3.36%) 各担任に時間をつくって教室にはこまめに顔を出すように指導した結果であると思われる。

4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	例年、国家試験対策はグループワーク、教員のチューター制を中心に行っている。より、きめ細かく対応するための体制を整えていく。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	キャリアサポートセンター（学生支援課）と協力し、2年次・3年次にそれぞれ就職指導の講義を行った。センター職員・学科教員で就職試験・面接等のフォローを行った。
4-2	中退率の低減が図られているか	4	新年度入学者に対して、入学3か月前から月1回（全3回）「入学前学習会」を開催し、入学後に3年間を共に過ごす学生との交流を図った。また、「リフレッシュ授業」としてGWと夏休みの長期休暇明けに、遠足などのレクリエーションを行い、モチベーションの維持を図った。結果として退学者は0名であった。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	合格率は93.8%であり、全国平均も上回った。（83.7%）例年の国家試験の出題傾向や難易度の変化を分析し、過去問題だけではなく、業者の過去問題も使って新規問題に対応出来るようにした。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	28年度もキャリアサポートセンター(学生支援課)による就活講座が行われた。就職に向けた動きを早くしようと取り組みを続けており、内定なども早く出るようになってきている。学力に不安のある学生は国試後に就活に動き出すことが多いが、国対学習を優先した結果であり今後も若干の学生で見込まれる。
4-2	中退率の低減が図られているか	4	学業不振、欠席の多い学生には担任教員による指導、三者面談等行い、中退防止に努めている。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	3	国家試験の難易度が上がったか、合格率は、全国平均を上回ることができた。国試対策について改善を行いながら進めることができ、今後も結果が伴っていくよう国試対策について改善を進めていきたい。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	キャリアサポート講習会を開催して就職活動をバックアップしている。

4-2	中退率の低減が図られているか	4	進路変更による退学者は、自分の特性を把握できていなかったためと思われる。入学前に仕事内容を詳しく説明しているが、社会人に対しては、STになりたいという思いだけでなく、自分を見つめ直すアドバイスも必要かもしれない。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	過去のデータ分析から、今の成績での国家試験合格率、科目別正答率を出し、合格ラインと苦手なものを意識させるようにしている。学生は国家試験合格率に敏感に反応していると思われる。

基準5 学生支援

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリアサポートセンター（学生支援課）と随時連携をとりながら就職試験対策の実施ができています。また、履歴書の添削、面接練習においては学内教員でも行い学生の就職サポートに努めました。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	必要に応じて、学生の保護者には随時連絡をしている。また年1回の保護者会を実施し学校生活の報告を行っている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	国家試験に不合格であった学生に対しては、学生の希望により、聴講制度により国家試験合格のサポートをしている。また、就職先でのトラブルや悩みがあった場合、学校での面談や就職の斡旋を実施している。

5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	非常勤講師とも連携をとり、必要に応じて、授業後に各科目の補習を実施している（個別指導）。また生活指導においての面談はほぼ毎日時間が許す限り実施している。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリアサポートセンター（学生支援課）によるキャリア講習をはじめとして、卒業年次の担任だけではなく、全学科教員が生徒からの相談を随時対応するようにしている。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	授業の講義記録、出席簿を担当が毎週確認して当番日誌を作成しているため遅刻、欠席が目立ち始めた生徒に対し担任から保護者に電話連絡、面談を行うようにしている。 また1回/年 各学年を対象に保護者会を実施している。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	同窓会主催の勉強会を2回/年を目標にしている。 研修、転職等の相談は随時対応している。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	H28年度は4回/年 担任が目標管理の面談を行った。 またそれ以外に出席不良、成績不振の生徒を中心に随時面談を行っているが、あまり問題を抱えていない生徒に対しても面談等を実施することで、クラス運営にも好影響を及ぼすと考える。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	キャリアサポートセンター（学生支援課）と連携し、情報提供・就職指導・試験・面接の練習等を行った。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	年に2回（5月・9月）に3学年で保護者会を行った。学年ごとの分科会や保護者との個人面談を行って情報交換を行った。また、必要に応じて保護者に学校に来てもらっての面談も行った。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	同窓会を組織しており、年2回の卒業生を対象とした勉強会を行った。また、転職などの相談には適宜乗るようにしてあり、求人情報の提供を行っている。実際に学校を通して違う職場に移っていった卒業生もいた。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	担任を中心にクラス運営を行い、授業態度・生活態度の指導を行った。心配な学生には面談を実施し、必要に応じて保護者を呼んでいる。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	柔道整復科は一部の学生は就職先が決まっており就活をする必要のない状態の学生がいる。半面就職希望の学生も多くキャリアサポートセンター（学生支援課）と連携しながら、就職先、学生と就職先の間に入り連絡を取りながら、高い就職率を目指し、支援している。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	欠席が多い学生、再試験が多い学生について面談指導が再三なされており、適宜保護者への連絡、三者面談など行い学業に専念できるよう対応している。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	資格取得者の卒後研修が定期的に行われている。資格未修得の卒業生には聴講制度、国試対策、受験支援を行っている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	欠席が多い学生、再試験が多い学生については教員による生活面、学習面での面談指導が行われている。保護者への連絡を行い、三者面談など適宜行い学業に専念できるよう対応している。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	3	臨床実習のスケジュールがそれぞれであるため、個人のスケジュールで活動している。特別に依頼があった時にはメールを使って情報提供をしている。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	基本は本人との話し合いによるが、必要に応じて保護者に連絡をしている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	3	卒後研修では場所を提供している。就職、国家試験対策等、情報提供ができるシステムになっている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	履修状況、出席状況により、指導が必要な学生については、欠席、遅刻、提出物、成績等の状況を教員全員で共有し、学科会議で検討し、指導等の対応策を検討している。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・学生支援課

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	日本学生支援機構奨学金ならびに教育訓練給付の案内および手続きについては、希望学生に周知徹底できている。

5-2	奨学金等の管理はできているか	4	奨学金事務においても滞りなく実施しており、名簿管理も徹底されている。
5-3	保健室の管理、健康診断の実施等、学生の健康管理はできているか	4	4月に全学生を対象として健康診断を実施しており、結果に基づく健康指導も行っている。保健室も適切に利用されている。
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。	4	週1回は臨床心理士による学生相談室を開室しており、希望者はプライバシー管理をされたうえで適切に利用している。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

基準6 教育環境

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
6-1	設備、機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	学科からの教育機器、機材購入要望書に基づいて、購入検討を行い、適宜の機具機材を購入し、設備の充実を図っている。
6-2	防災に対する体制は整備されているか	3	避難訓練を実施し、中村消防署に訓練届も提出している。危機管理マニュアルの改訂が必要であるため、H29年度に改訂を行う。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

基準7 学生の受け入れ募集

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか	4	過去3年間に入学実績のある高校282校を指定校とし、在校生の状況、卒業生の進路の報告を行った。
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4	時代のニーズに沿った多様な入学試験を実施している。 A0入試は書類審査（エントリーシート）と個人面接により判定を行っている。また希望者にはエントリーシートの添削の支援も行っている。②学校推薦入試、指定校推薦入試、社会人入試、一般入試においては小論文の採点基準を設け明確化し、判定している。また、一般入試の学力試験は科目の選択が可能になっている。留学生には留学生特別入試で対応している。 入学者の決済に関しては、学科長より校長へ決裁書の申請を行っている。
7-3	学生募集において資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	国家試験合格率、就職（内定）率などの情報はホームページやパンフレットで情報提供を行っている。
7-4	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	近郊の養成校と比較して同程度になっている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠となる資料

- ・平成28年度 情報提供実施高等学校一覧
- ・学校案内、サポートブック、募集要項、ホームページ

基準8 財務

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3	歳入に対する人件費比率が高いため、給与及び賞与を見直し計画的に実行している。経費削減策などに取り組み、単年度黒字化を実現し中長期的に財務基盤の安定化を目指している。
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものか	3	予算、収支計画は前年度の執行状況及び、法人全体の状況を鑑みながら、法人本部にて調整し策定され理事会にて承認され実行している。期中に施行状況を関連部に公開している。
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による会計検査を受け、適切な会計に努めている。会計監査については、法人本部の所管で公認会計士による外部監査、および監事による財務監査を実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

- ・平成28年度 事業活動収支計算書

基準9 法令等の遵守

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	養成施設自己点検表を活用して、教育、学則変更との手続き等を点検、改善をしている。内部監査要綱に基づき、内部監査を3回実施(臨時含む)した。監査結果が観察事項であった事項は、フォローアップを行い、是正状況の確認を行った。
9-2	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	建学の理念・目的、教育および管理・運営内容の全般について、自己点検・評価を実施し、改善を図っている。
9-3	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	情報セキュリティシステムを構築し、学内外の情報セキュリティの加害行為を抑止している。教職員の情報リテラシーを目的として、9月6日に全教職員を対象に情報セキュリティマネジメントに関する研修会を開催し、教職員の情報管理の意識向上を図った。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

- ・ H28年度 事業報告書

基準10 社会貢献・地域貢献

・臨床工学科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	愛知県臨床工学技士会が主催する、一般市民向けのイベントに、学内の機具器材を貸与している。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	現在、日本赤十字社による献血活動の普及を行っている。献血を広く知ってもらうため、授業後に献血センターの見学などを取り入れることで多くの学生の献血の協力がえられた。また、愛知県臨床工学技士会主催のイベントに対しても学生案内（募集）を行い、ボランティアスタッフとして参加した。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・理学療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	理学療法の学術及び技能の向上を目的とした、研修会の会場として、臨床実習に協力していただいている臨床実習施設等の依頼により、実習室、教室の貸し出しを行っている。

10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	実習施設をはじめ、理学療法士会および各団体からの依頼があれば生徒には周知して希望者を募るようにしている。 関連のない施設および団体からの依頼に対して積極的な対応はしていない。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・作業療法科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	学科の教員が参加している勉強会の開催を、当校を使用して行った。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	精神科病院・老人保健施設・有料老人ホーム等の施設でお祭りや行事イベントにボランティアとして学生を送った。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・柔道整復科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	中・高生に対して柔道整復師の職場体験、説明を受け入れている。また教員が高校に出向き柔道整復師の仕事について紹介する取り組みも行っている。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	今年度も社会人チームの大同特殊鋼ラグビー部に学生トレーナーを派遣している。高校などの部活に対しても学生がボランティアでトレーナー活動を行っている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

・言語聴覚科

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	卒後研修の場として、学校を提供している。臨床実習のバイザーでもあるため、学生指導の勉強の場にもなっている。言語・発達障害サポートルームひまわりが、本格運営できるようになった。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	2	研修会の案内、ボランティアの案内をしている。臨床実習前に患者様と関われる機会としての位置づけができないか引き続き検討課題として考えている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			